

推薦調書（実装部門）

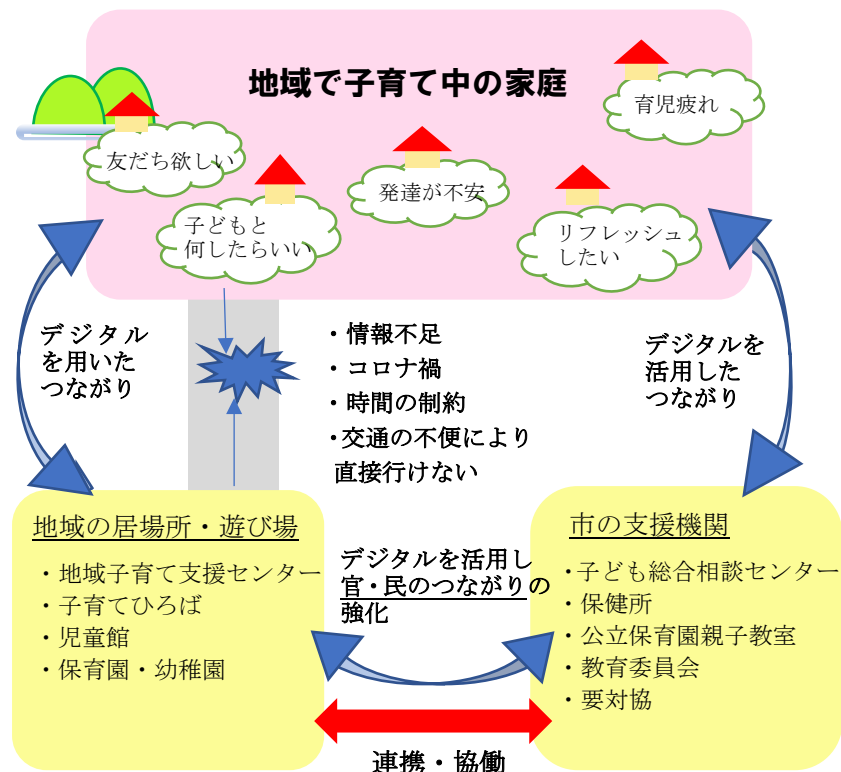
表彰区分	指定都市・中核市・施行時特例市等	推薦都道府県	愛媛県
地方公共団体名	松山市		
取組名称	地域子育て支援拠点事業でのオンラインサービスを活用した子育て支援		
連携自治体、企業、団体等	松山市、松山市社会福祉事業団、NPO 法人子育てネットワークえひめ、松山東雲女子大学、聖カタリナ大学、社会福祉法人 後世福祉会 他 8 施設、学校法人 松山学園		
デジタルを活用した取組の概要 （デジタルを活用した取組の全体概要と解決する個別課題の具体的内容）	（種類）	①	（左記が①の場合 の分野）
	子育て 【デジタルを活用した取組の全体概要】 ○地域の子育て家庭と子育てを応援する官民の機関のつながりに、デジタルを取り入れ支援することで、様々な要因による子育て中の孤立感や負担感を軽減し、『笑顔で子育て』を実現するための取組。 【実施に至る経緯・動機】 ○共働き家庭の増加、核家族化、地域コミュニティの希薄化などにより子育て支援のニーズは多様化しており、本市では、これまでも地域で子育てする家庭に、ママ友の出会いの場の提供や継続した相談支援等で寄り添ってきた。結果、地域子育て支援拠点は、利用者にとって居場所であり、子育てのパートナーとして心のよりどころとなっていた。しかし、生活様式の多様化や新型コロナウイルス感染症拡大による環境の変化の中では、孤立感や育児負担が増大している等の声が聞かれていたこと、子育て家庭が希望する情報や相談、サービス等の利用時間や手段等も様々であること等から、必要な人に必要な支援を届けるためには、これまでの体制では困難なこともあった。以上のような背景や課題を基に、本市で子育てをする家庭が、孤立することなく安心して子育てができる環境作りの一助として、官民連携のもと、デジタルを活用した子育て支援体制づくりに取り組んでいる。 【解決した課題の具体的内容】 松山市地域子育て拠点事業担当者研修会（市内 31 ヶ所拠点及び近隣市町の担当者参加／年 6 回開催）にて、保護者の支援ニーズや課題について情報を共有、意見交換を行い、それぞれの実施主体の強みを活かしたアプローチと、官民連携し子育て支援に取り組んでいる。 ～子育て家庭の孤立を防ぐ～ ○ビデオ通話による子育て相談を受けることにより、利用者にとっては、対面でなくても支援者につながっている感があつた。また、支援者にとっても、子どもの様子や自宅の様子がわかり、状況にあったアドバイスや関わりができた。また、ZOOM を使った育児講座・座談会等、集団の活用では、支援者と保護者・子どもが、マスクなしで顔を合わせて交流することができ、かつ自宅で気軽に参加できた。 ～子育ての負担感の軽減～		

	○Instagram や YouTube 配信による遊びの提供をすることで、ひろばや児童館に出かけなくても、利用者の希望する時間に、希望する内容の遊びや歌を子どもと一緒に楽しめた。また、LINE 等の SNS を使った子育て相談には、電話や面談による相談をためらっていた人が、相談を寄せ、支援者との信頼関係のもと、養育支援につながった例もある。 ～子育て支援サービス利用の利便性の向上～ ○Instagram や LINE による情報発信により、利用者の都合の良い時間にイベントや子育て情報の確認、予約、参加後のアンケートの回答ができるとともに、主催者もアンケート集計等の効率化が図れた。また、支援機関同士の情報交換においても、タブレット等を使って研修や相談会を開催することができ、コロナ禍においては医師等の専門職にもリモートで支援方法についての相談ができた。 以上のような取り組みの中で、官民が連携し合って地域の利用者に沿った支援が展開できるとともに、保護者にとっても新しい支援サービスを経験することにつながった。
デジタルを活用した取組による成果（成果がわかるデータ・数値）	保育所 17 か所、児童館 8 か所、ひろば 6 か所、計 31 か所の、地域子育て支援拠点からの情報発信や支援対応は、 Instagram、Twitter、YouTube が、2655 件(R3. 4～R4. 3 累計) LINE 相談、ビデオ相談が、823 件(R3. 11～R4. 3 累計) ZOOM による育児講座・座談会が、24 回／参加者数 256 人（R3. 11～R4. 3 保護者、子ども累計）であり、アンケート結果は、全員満足、今後のテーマや開催時間の延長の希望が寄せられた。
本取組の特徴的な点やデジタルの活用において工夫した点	【民間事業者との情報共有】 施設利用者のニーズと現状（コロナウイルス感染状況・市の対応策等）を共有し、子育て支援への共通認識を持ち、各関係機関の強みを活かした。 【利用するためのハードルを下げる】 デジタルでの支援を経験し、使い楽しめることにつながるよう小グループで丁寧にかかわれる環境からスタートした。 【SOS のキャッチ】 相談等を受けている中で、保護者に支援が必要と感じたときは、関係機関との連携のもと面談や公的支援に速やかにつなぐことに努めた。
今後の展望	デジタルを活用した支援やサービス、イベント等について、広く周知し、気軽に相談や支援手段の一つとして選択できるよう既存の相談や支援と併せ、ハイブリッドな支援を目指していく。そして、今後も育児講座や座談会を通して、離島や近隣に子育て家庭がない地域の親子の友達作りや、複数の親子が遊んでいる場所が苦手な親子等にも支援が行き届く取り組みを継続する。さらに、マタニティ期、産後の時期から、気軽に相談・活用できる場としての役割を担い、産前産後から継続した子育て支援を行う入り口となるよう工夫したい。現状に満足することなく、よりよい子育て環境の構築を推進する。

概要図

笑顔のまちづくりプログラム ～笑顔を「育む」～

子育てが地域の力で豊かになる社会へ
(本市がもちあわせる離島も含め
誰ひとり孤立させない支援を推進します)



継続した支援を行い、対面もデジタルも活用したハイブリッドな子育て支援へ

STEP1

デジタル環境に

○オンライン講座

- ・ZOOM 操作方法
- ・オンライン通話経験

○YouTube 配信

『じどうかん
あそびのじかん』

- ・遊びの紹介動画
- ・割れないしゃぼん玉
- ・光る剣の作り方など

○Instagram 配信

- ・予定表配信
- ・活動の様子を掲載

STEP2

デジタルを活用し
育児中の孤立感や
負担感の軽減

○オンラインで繋がろう

『オンライン座談会』
幅広いテーマで気軽トーク

○オンライン予約

自由な時間に予約

○オンライン相談

- LINE 相談
- ZOOM 相談

島に里帰り出産中でも
先生の顔をみて話せて嬉しい！！

STEP3

デジタルを活用した
子育て支援体制と
多様な生活様式

○オンラインから広がる輪

- ・家から出づらい家庭にも
憩いの場の提供
- ・離島や近隣に子育て家庭が
いない親子の友だちづくり

○必要な支援を受けられる体制

- ・相談機関との連携、サポート
- ・デジタル支援をきっかけに
ふれあいのある寄り添った
支援の継続

どこにいても
周りとの繋がりを
実感できる

いつでも
笑顔で子育てを
実践する

実施例) オンライン講座の様子



デジタルを活用した子育て支援環境は、さまざまなツールを自分で選択でき、自分の時間に合わせて利用できることが最大の魅力！

ハイブリッドな支援体制により、安心して育児ができ『住み続けられる街づくり』を推進します。

出かけられない時に
少しでも話せて楽しかった！
リフレッシュになった！！

マスクなしで話せて
楽しかった！